国語総合（古典）予習指示プリント　「数寄の楽人」

教科書18頁「数寄の楽人」の学習から、予習ノートをもとに授業を進めます。
①新たに予習ノートを作成し、②教科書の本文を写し、③自分で辞書で単語を調べて、④現代語訳を考えてきてください（①～④まで必須。わからないところは空欄でよい）。
次の文章は「数寄の楽人」の本文を単語ごとに区切ったものです。辞書で単語を調べるときの参考にしてください。

数寄の楽人

中ごろ、市正時光と いふ 笙吹き あり けり。茂光 と いふ 篳篥師 と 囲碁を 打ち て、同じ 声 に 裏頭楽 を 唱歌 に し ける が、おもしろくおぼえ ける ほど に、内 より とみ の こと にて 時光 を 召し けり。

御使ひ 至り て、この よし を 言ふ に、いかにも、耳 に も 聞き入れ ず、ただ もろともに 揺るぎ合ひ て、ともかくも 申さ ざり けれ ば、御使ひ、帰り参り て、この よし を ありのままに ぞ 申す。いかなる 御戒め か あらむ と 思ふ ほど に、「いと あはれなる 者 ども かな。さ ほど に 楽 に 愛で て、何ごと も 忘る ばかり 思ふ らむ こそ、いと やむごとなけれ。王位は 口惜しき もの なりけり。行き て も え 聞か ぬ こと。」とて、涙ぐみ 給へり けれ ば、思ひのほかに なむ あり ける。

これら を 思へ ば、この世 の こと 思ひ捨て む こと も、数寄 は ことにたより と なり ぬべし。

【発心集】